



出動する救急車。24 時間体制の業務には昼も夜もありません

## 24 時間体制で救急医療に対応

救命救急センターは、心筋梗塞<sup>しんきんこうそく</sup>や脳卒中<sup>のうそちゅう</sup>など生命の危険に直結する患者の救命医療を目的に設置されている医療機関です。センターは、重症患者や複数の診療科にわたるすべての重症救急患者に、高度な救急医療を24時間体制で総合的に提供できる機能を持っています。

日本の救急医療は、一次救急から三次救急までの3種類に大別されます。休日や夜間の入院治療を

# きしむ 救急医療

## 負担増す救命救急センターの現状

要しない軽症患者への対応が一次、手術や入院などが必要とされる患者への対応が二次、生命の危険に直結する重度の患者への対応が三次で、救命救急センターは三次の救急医療機関に位置づけられます。（3ページ表③参照）

### 限られた医療スタッフで運営

県内には5つの病院に救命救急センターがありますが、そのうちの1つが飛騨地域で唯一の機関として、高山赤十字病院に平成4年

突然の病気や大けがをしたときに必要な救急医療。現在、全国各地で医師不足などにより地域医療の崩壊が進んでいるといわれていますが、私たちの暮らす地域の救急医療システムは大丈夫なのでしょうか。

今月号では、飛騨地域における救急医療の現状について紹介します。

12月に開設されました。

夜間の診療体制は、医師4人、看護師2人、薬剤師・医療技師など4人の計10人とその他の待機体制で救急に備えています。

しかし、救急医療の現場では、小児科医が不足するなかで、小児や比較的症状の軽い患者が夜間や休日に救命救急センターへ集中し、医療スタッフの負担が増大しています。（表①、表②参照）

さらに、医師には月に約4回の当直があり、当直明け後も通常



高山赤十字病院救命救急センターの窓口。本来は二次救急医療機関では対応できない重症患者を受け入れます

表① 救命救急センター受診者数の推移

